

# 三島駅南口の再開発 始動

## 県が計画認可 1月着工



豊岡市長(右)から認可書を受け取る井上理事長=三島市役所



三島駅南口東街区再開発事業完成のイメージ画像(提供画像)

三島市の三島駅南口東街区に広域健康医療拠点として子育て支援施設、商業施設、マンション、住宅などを整備する再開発事業に関し、再開発組合が申請していた権利変換計画を15日、川勝平太知事が認可した。事業最後の「ヤマ」となる認可を受けたことで年明けの1月に着工し、昭和の時代から検討が進められた三島駅周辺の再開発が本格的に始まる。2027年度の完成を目指す。

(伊豆日日新聞 北島彰浩)

権利変換期日は22日で、市を含む27の地権者に対し通知が完了した30日後以降、明け渡しの期日が設定される。組合は1月末ごろまでの明け渡し期日を設定し、明け渡しが完了した建物から順次解体していく。

再開発の総事業費は組合設立時は209億円だったが、建設資材、人件費の高騰などで52億円の増の261億円となった。国、県、市の補助金で計119億円を賄う。

事業用地は約1・3畝で、マンション、商業施設、賃貸・分譲住宅、オフィスなど計6棟を整備する。最も高い24階建て建物の4階は医療フロアで、高機能健康センター導入が検討されている。

市役所で交付式が開かれ、豊岡武土市長が組合の井上裕幸理事長に県の認可書を手渡した。井上理事長は「昭和のころから検討が進められ、ようやくこの段階を迎えることができた。市民や駅を利用する多くの人に喜ばれる施設にしていく」、豊岡市長は「いよいよスタート地点に立った。多くの人が期待する事業。これからも市として連携して取り組んでいく」と話した。

交付式に合わせ、市と組合は再開発事業で整備される施設に一時待機場所、地域防災倉庫を設置する「帰宅困難者対策の連携協力に書」を交わした。

伊 豆 日 日 新 聞

令和5年(2023年)12月19日